

活動報告

団体名	一般社団法人災害救援協会
活動名	理念～発災後の救援活動を通して被災地の復旧を支援します～
活動期間	2018年7月～2018年8月
活動の成果	<p>活動の背景および目的：どこの現場も、ボラセン運営経験者不足が露呈。また一般ボラさんの扱いが過保護化しているために、今一度ボランティアの精神を説くとともに、張り紙にもして参りました。被災地の大渋滞は常であり、私どもは2輪車を持ち込んでの活動に徹するために、現地での行動力・機動力があるうえに被災地の渋滞緩和に寄与した活動ができている。広島市安芸区矢野東では重機オペレーターが居ないという内部情報を的確に掴んで現地入りしたために、町内会から大変に感謝される活動が実施できた。被災地内部からどのようなプロボラをどんな形でどの期間欲しているのかなどの情報を的確につかむ情報収集活動が必要である。また野営地の有無や食材が調達できるのか否かなど地元の情報を捉えることで、地元から持っていく資機材の選定や、荷物を減らすことが有効になる。そのため常日頃から、全国の防災ボラ団体とのネットワーク作りが必要である。今回も被災地支援活動を通して、多くのボラ団体や個人で活動するプロボラとのネットワークが築けたことは被災地支援活動を通して得た大きな成果である。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>私どもは、プロボラといえども被災地支援活動で生計を立てている団体ではありません。本業を持ちながら、被災が起こってしまった場合には本業は社員に任せ、被災地支援活動に出向きます。被災地支援活動で、足りない資機材や土嚢袋と言った消耗品、そして時には4トンダンプを自費にてレンタルして提供することをしてきました。この様に自費が多く出していく活動となる被災地の場合、それがのちにボディブローのように効いてきてしまい、継続した支援活動を続けることが困難になります。今回もそんな思いでおりましたところに、防災団体知人より赤い羽根募金の存在を教えて頂き、助成金の申請を初めてさせて頂きました。助成金ありきで活動をしてきて居ませんでしたので、領収書がない出費など、申告できない経費もたくさんありましたがしかし、今回のように助成金が認められたことは、疲弊していた被災地支援活動の疲れをいやして頂けるありがたい事であり、感謝申し上げる次第です。</p>

(活動のようす)

